



NEWS ECO



TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681
URL <http://www.shibuya-p.com>



4月1日、新入社員を迎えての新年度のスタートは満開の桜の下、ラジオ体操で始まりしました。午後からは例年通り「70期経営計画」説明会が行われました。

「**わが社は、安全、健康、快適な環境設備を創り、育て、守り、そして、それに関わる全ての人に喜んで満足していただくために存在します。**」との「経営理念」に変わる「**わが社の存在意義**」が昨年にひきつづき基本方針として社長より示されました。

また、ISO9001 をツールとする **品質目標・品質方針**
ISO14001 をツールとする **環境方針**

更に、大規模な災害が発生したときの事業継続計画、「**わが社のBCP**」が発表され予期せぬ大規模災害への対応の方法が示されました。

シブヤパイピング工業(株)の社員として社会の一員として「経営計画書」「わが社のBCP」を理解し、ISO9001・ISO14001をツールとして使いこなし、スパイラル・アップしながら新入社員の手本となる行動、現場管理、環境保全を心掛けましょう。

ラジオ体操をしている傍らに小さなビツの花を見つけました。ソ科の「ホトケノザ」です。花を囲む葉の形がハの葉に似ていて仏の台座のように見えることから「ホトケノザ」と呼ばれるようになったという春の野でよく見られる花です。

春の七草の「ホトケノザ」はこのビツ色の花ではなく黄色の花を付ける科の「コオニタビラコ」という植物だそうで、七草粥を食べる1月7日には葉が地面にへばりついていて花は咲いておらず、葉だけで識別することは慣れない人には無理とのことです。間違っ七草粥に入れる人もあるとか・・・

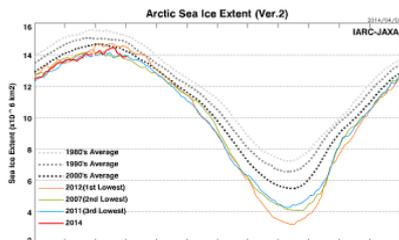
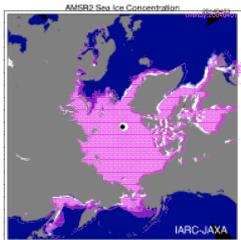
《ISO年間活動予定》

内部監査お疲れ様でした。 2014年度の年間活動予定が決まりました。監査の結果を踏まえ今年度の活動計画に生かしましょう。

4月18日	マネジメントレビュー (QMS・EMS) 69期分析報告	10月17日	マネジメントレビュー (EMS) 中旬 外部定期審査(QMS)・JQA
5月	前期・年間活動計画書提出(4月～9月) 前期・目標カード提出(4月～9月)	11月	外部定期審査(EMS)・JQA
7月31日	年間活動計画書：中間評価提出 前期・目標カード(4月～9月)：評価提出	2月28日	年間活動計画書：最終評価提出 後期・目標カード(10月～3月)：最終評価提出
8月	内部監査(QMS・EMS)	3月中旬	内部監査(QMS・EMS)内部監査
9月18日	マネジメントレビュー(QMS) 後期・年間活動計画書提出(10月～3月) 後期・目標カード提出(10月～3月)		

前期は活動計画書・目標カードの提出から評価までの期間が短くなっています。提出は5月ですが4月から活動することを前提にして計画書・目標カードを作成し、8月の内部監査までに評価、改善ができるように活動し、後期の活動につなげましょう。

《今月の北極海》



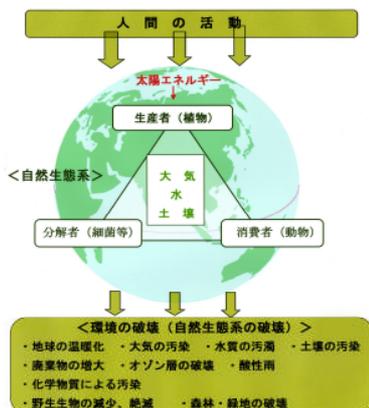
IARC-JAXA Information System より

「本当に地球は温暖化？」というテーマで先月北極海の氷の状況を掲載したところ反響がありましたので4月の状況を掲載しました。10年前(ビツ)と比べてほとんど変わりません。やや白いところが見えますので結氷面積は10年前よりも今年はやや多いようですが厚さが重要だとのことですので参考まで。

左のグラフは氷の面積を通年で表したものです。2012年の冬季は今年より多くの面積が結氷していますが夏季には最も氷が少なくなっています。北極海から氷が無くなること大騒ぎになった年です。今年の夏はどうなるのか？興味本位ですがこれから氷の様子を追いかけてみます。

《環境保全・環境問題》

私たちの行動すべてが環境に影響を及ぼしていることを自覚しよう！



地球上に生きる全ての生物は互いに影響しあいながら地球環境の中で生きています。

生き物は、「太陽エネルギー」で光合成をおこなう植物・植物を食べる動物・動植物の死骸を分解する細菌類に大きく分けられます。

植物は、細菌類が分解した物質と光合成を行うことで生産した有機物によって成長し、生き物の呼吸に必要な酸素を放出しています。動物は、植物が生産した有機物を食べることで生存し、細菌などは、枯れた植物や動物の死骸を分解し、分解物は植物の栄養となって吸収されます。このような「生き物」の循環に必要な「大気・水・土壌」が健全であること、太陽のエネルギーがあつてこそ自然生態系が保全されていきます。

人間も自然生態系の一部ですが人間の生活は、太陽ほどではないかもしれませんが他の生物とは比べものにならないほどの自然生態系に対する影響力を持っていることを自覚しなければなりません。

人間は科学技術を発達させてはきましたが衣食住のすべてを地球上の動物や植物、鉱物に依存して生きています。動物や植物が絶滅の危機に瀕すれば、自然生態系の中で生きて人間そのものの生存さえ危うくなります。

私たちの今の生活は自然生態系の正常な循環を維持できるかどうかをもう一度考えてみましょう。(参考資料：環境イノベーション)